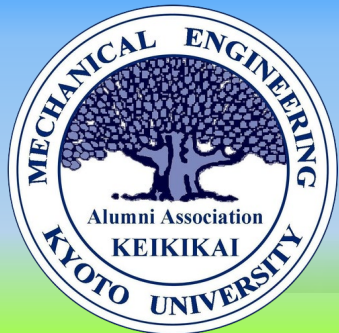




京機短信

KEIKI short letter

No.419 2026.8.5

京機会(京都大学機械系同窓会) tel. & fax. 075-383-3713

E-Mail: jimukyoku@keikikai.jp

URL: <https://keikikai.jp>

編集責任者 京機短信編集委員会

目次

- ・日本のやまとごころの源流を訪ねて(後編)……千々木亨(pp. 2 – 10)
- ・不思議な世界への招待……田中庸彦(pp. 11 – 13)
- ・2027年度京機会総会のご案内



『皿倉山山頂より望む北九州市の夜景』* © Muyo / [CC BY-SA 4.0](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/)

* 編集委員会より：皿倉山にちなんで Wikimedia にある画像ファイルを用いました。

日本のやまとごころの源流を訪ねて ～九州の旅 豊の国 宇佐八幡神宮（後編）

九州支部 千々木亨（1979年卒）

3. 豊の国の歴史の謎

（3）宇佐八幡宮ご神託事件と和氣清麻呂の物語（古代日本最大の皇位継承の危機）

奈良時代末期、仏教の最高位にあった道鏡が、女帝であった称徳天皇から異常なまでの寵愛を受け（夫婦関係だった？）、政治の世界でも実権を強めた。そんな頃、西暦769年に宇佐神宮から「道鏡を天皇にすれば世が太平になる」というご神託が下りたとの情報がもたらされ、それを確認すべく称徳天皇の側近の和氣広虫の弟の和氣清麻呂が宇佐神宮に遣わされた。

清麻呂は「皇統を守り道鏡を排斥せよ」というご神託を受け、それを持ち帰り素直に報告した。そこで道鏡の逆鱗に触れ、広虫は備後へ清麻呂は九州大隅へ流罪となる。その後称徳天皇が逝去し道鏡が失脚すると、清麻呂と広虫は都へ戻される。清麻呂はその後、桓武天皇に重用され、大阪湾と長岡京をつなぐ土木事業を指揮したり、長岡京から平安京への遷都を進言するなど、政府の中枢で大活躍した。



和氣清麻呂は戦前は拾円札の肖像にも登場する有名人物で、皇位を狙う道鏡の野望を打ち砕き日本の皇統を守り抜いた天皇の忠臣として国定教科書に紹介されていた。

しかし、平野氏によると、戦前の清麻呂人物像は徳川光圀編纂の大日本史以降に登場する天皇の忠臣という造られた人物像であり実態とは異なるという。平安末期の「水鏡」や鎌倉時代の「続日本紀」の記述からは、時代を生き抜く清麻呂及び和氣一族の姿が垣間見えるという。

この件については平野邦雄著「和氣清麻呂」（吉川弘文館）に詳しく紹介されている。

そこで平野氏の説明を小職なりにまとめてみた。

1) 和氣清麻呂が登場した時代背景

清麻呂の登場する奈良時代末期は、壬申の乱以降天武天皇系一族が皇位を独占する中、復活をもくろむ天智天皇系一族と天智天皇系一族、各々を支える貴族勢力、聖武天皇時代以降権力を掌握した仏僧勢力がからみあい、激しい権力闘争を繰り広げた時代であった。

その中で、地方で産業基盤を強化し着々と力を蓄えて来たのが土豪とよばれる地方豪族であり、中国地方では吉備氏と和氣氏であった。吉備真備は二度も遣唐使に参加し、高度な知識を武器に、時の有力貴族に取り入りながら政治の中枢にのぼりつめていった。しかしながら、地方豪族としての吉備一族の連携は弱く、権力基盤を固めることは出来なかった。

備中を拠点とする吉備氏より少し東の備前を拠点とした土豪の和氣氏は、地域での産業振興にも熱心で部族の結束も強く、九州へ勢力を拡大した近郊の有力土豪の秦氏とも連携していた。(秦氏は宇佐神宮近くにも拠点を持っており、清麻呂を宇佐で支えた可能性が高い(後述))

そのような強いネットワークに支えられ、土豪出身者として天皇家の歴代の皇后の側近に取り立てられたのが清麻呂の姉の和氣広虫であり、兵衛(とねり)と呼ばれる武官として、身を立て武功を上げながら位を上げていったのが和氣清麻呂である。一族の結束は硬く、この姉弟を和氣氏の期待の星として支えてくれる応援団も多かったようである。

一方で、貴族や大学エリートと比べると出世ははるかに遅く、失敗した時の格下げも極端に厳しかったことから、広虫も清麻呂もどこかの貴族勢力や仏僧、ましてや道鏡などの派閥には属さず、実力と実績、己れの信条で出世を目指す中立無派閥派だったと平野氏は見ている。

当時、女性天皇となった孝謙天皇は、道鏡への信頼感を示し引き立てるため天皇は仏門に入る。更に譲位して上皇となるが、その後も実権



称徳天皇と道鏡

を掌握し続け、再び天皇の座に戻り称徳天皇となった。

称徳天皇は祈祷で病を治してくれた道鏡を異常に寵愛するようになり（平野氏は道鏡とは既に夫婦関係にあったという）、太政大臣・禪師や法王の地位につけるなど、政治の世界で道鏡に最高位の権力を与えてゆく。当時、吉備真備は右大臣ではあったが道鏡の前では無力であったようである。

道鏡は徳性に欠け、民衆を救うという意識も弱く陰謀にふけるタイプの男であったようで、清麻呂のような、自分を支えてくれる土豪豪族やそれに仕える民衆への仁義に厚い男にとっては、道鏡は鼻持ちならない悪党に見えたに違いない。

2) 神仏習合発祥の地 宇佐神宮

宇佐神宮は八幡大神を祀った日本4万社ある八幡神社の総本山であり、日本初の神仏習合の神社である。西暦712年応神天皇が八幡大神となり宇佐の地に鎮座したと伝えられる。

大和朝廷と宇佐の民（おそらく豊の国）を率いる八幡大神が南九州の隼人を征伐した後、隼人の霊を鎮めるため、神社と仏教の融合の儀式として

放生会を行った。更に、西暦725年にご神託により本格的な寺院を建立し仏の守護を求めた。

西暦749年には東大寺の大仏の開眼を祈念して神輿で参拝し仏教勢力とも関係を強めた。

地震や風水害のみならず疫病も頻繁に流行する中、日本の神様のご加護だけでは足りないので外来の仏様にも助けてもらおうという柔軟な発想が、日本人的思考の源流にあった。



宇佐神宮

3) 宇佐神宮ご神託事件

このような背景の中、大事件が勃発する。道鏡が政界での権力を強めていたこの時期、宮廷の文武を掌握していた道鏡の弟の弓削浄人が太宰府長官を兼ねていた。そこに宇佐神宮の神官を実効支配していた阿曾麻呂が部下として異動してきた。

この阿曾麻呂が、「道鏡を天皇にすれば世が太平になる」という神託を都へ届けて来たのであるからその信ぴょう性が疑われてしかるべきである。

歴史書「水鏡」によるとこのニセのご神託を称徳天皇に伝えたのは和氣広虫であったとある。素直な広虫は特に事前チェックしなかったのだろう。称徳天皇は広虫に宇佐神宮へ行って確かめるよう指示したが、広虫は長旅に耐えられないので信頼する弟の清麻呂にその任務を託した。

平野氏によると、清麻呂は出発する時、道鏡から良いご神託を持ち帰れば昇進させてやるとささやかれたようであるが、宇佐で受けた「皇統を守り道鏡を排斥せよ」というご神託をそのまま（おそらく道鏡に断らず・・）天皇に告げた。



清麻呂がご神託を受けた社殿のある丘（大尾神社入り口）



清麻呂がご神託を受けた社殿（昭和時代に修復再建された）

ところが天皇からは清麻呂が誤ったご神託を伝えたとされ、姓名を変えて別部穢麻呂という格下の名前に降格されられる。広虫も還俗させられ降格となる。土豪から取り立てられ、実力で天皇家の身内のような待遇を獲得してきた和氣家の二人にとり、すべての努力をご破算にされたような仕打ちであった。更に道鏡により、広虫は備後へ、清麻呂は九州の大隅へ流罪となる。その上清麻呂は宇佐の港に到着した時、道鏡の差し向けた刺客に襲われ足を負傷する。その時300頭のイノシシが清麻呂を助け、北九州の山麓へ運んだという言い伝えがある。イノシシに助けられ清麻呂は足を治療した。平野氏は、このイノシシとは、イノシシを神の使いとして祭る宇佐の秦氏一族（和氣氏と同じ備前を本拠とする土豪で、和氣氏と懇意にしていた）を指しているのではないかと推察している。

都では当時の清麻呂の確信に満ちた言動が、天皇側や道鏡の処罰の不当性を際立たせることになる。不満をつのらせていた天皇反対派による天皇と道鏡の排除

運動が強まってゆく。

天皇も「邪な心を持って天皇の座を狙う者は排斥する」という宣言を出さざるを得なくなる。道鏡は急速に宮中の信任を失い、称徳天皇が亡くなると、あっけなく左遷させられてしまう。

清麻呂の姉の和氣広虫は和を重んじる人であった。騒乱の時には逆徒として連座制で切り捨てられる者を助け、遺児を養子として助けるなど、地方の有望家にふさわしい行為に徹した。権力に媚びず、騒乱と流血を最小限にとどめようとする信念がある人であったと平野氏は評価する。京都大学名誉教授の上田正昭氏（小職が大学時代教養部で単位をもらった）も和氣広虫を「古代の社会福祉の先駆者」と評しその人徳を高く評価している。

4. 豊の国で見出した日本人のOS（やまとごころ）にキーワード

物語の現地に赴き、九州の大自然の中でいにしえの人々と同じ空気の中に身を置くと、これらの豊の国の歴史物語には、時代を超えて日本人のこころを動かす共通のキーワードがあることに気が付いた。

「自然への畏敬の念」「神仏崇拝」「和の心」

九州は、太古より火山活動が活発で台風や梅雨前線による風水害も多い地域である。九州の人々は自然に対する畏敬の心が日本の他の地域の人々よりも人一倍強かったであろう。九州を訪れた人はだれもが、その雄大な自然に心を奪われる。古代の日本人がその九州の自然の姿の中に神仏の力を感じ、祈りを捧げ加護を求めたことはごく自然であったと思う。日本古来の神様も外来の仏様、どちらもわけへだてなく崇拝することは8世紀初頭には当たり前に行われており、すでに、日本人のOSに書き込まれていた。

九州は大陸に近く技術や文化を導入しやすい一方、大陸からの侵略の危険にも常にさらされていた。そのような環境の中、争うのではなく和を大切にする生き方や考え方が日本人のこころに自然に組み込まれていったのであろう。特に豊の国は火の国や筑紫の国に比べると平地が少なく、一人では何もできない。和して

お互いに協力することは生存戦略としても必須であったであろう。

5. 九州に潜む 日本人OS「やまところ」のパスワード

さて、読者の皆様は「やまところの源流が豊の国の歴史の中にあるのではないか」という想いに、少しは近づけただろうか。きっと、まだまだ多くの謎が残っているであろう。

ご心配なく。いにしえの人々は我々子孫が日本人OSを作動させやすいよう、パスワードを九州各地に潜ませておいてくれた。たとえば九州の地名がそうだ。

九州には豊の国の歴史物語に由来した地名がたくさん残っているのである。

神功皇后や仲哀天皇の足跡が偲ばれる北九州の地名

皿倉山（さらくらやま）：皇后が山へ登り日が暮れたので「更に暮れたり」と言ったので

帆柱山（ほばしらやま）：皇后が新羅征伐の時の帆船を建造する為帆柱を切り出した山なので

若松（わかまつ）：仲哀天皇が船で移動中若い松がたくさん生えて居る島を見つけたので

宇美（うみ）：皇后が新羅征伐の帰りに応神天皇を産んだ場所にちなんで

志免（しめ）：応神天皇のおしめをつくった場所にちなんで

和氣清麻呂の足跡が偲ばれる北九州の地名

足立山（あだちやま）：清麻呂がイノシシに助けられ、かくまわれて足を治療した山
治療のおかげで足が立つようになったので

実は北九州の拙宅からは、これらのゆかりの地の中の皿倉山と足立山の両方を臨むことができる。最近、朝晩聳え立つこれらの山々の雄姿を仰ぐたび、心の中の「やまところ」にスイッチが入るのを感じる。（気のせいかもしれないが…（笑））

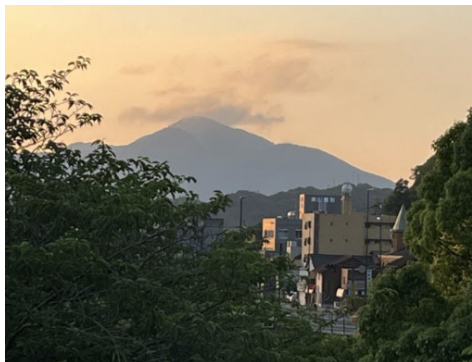
これら以外のパスワードが、まだまだたくさん九州各地に隠されているに違いない。

京機会会員の皆様、家族やお友達の皆様

**心の翼を大きく広げ、想いが通じ合う京機会の仲間と共に、
歴史を訪ね歩く時間旅行へ出かけませんか**

京機会九州支部では、皆様の心の中にある「やまとごころ」にスイッチをいれ本来の日本人らしさに迫る、魅力的なイベントをどんどん企画してまいります。是非、ご参加下さい。

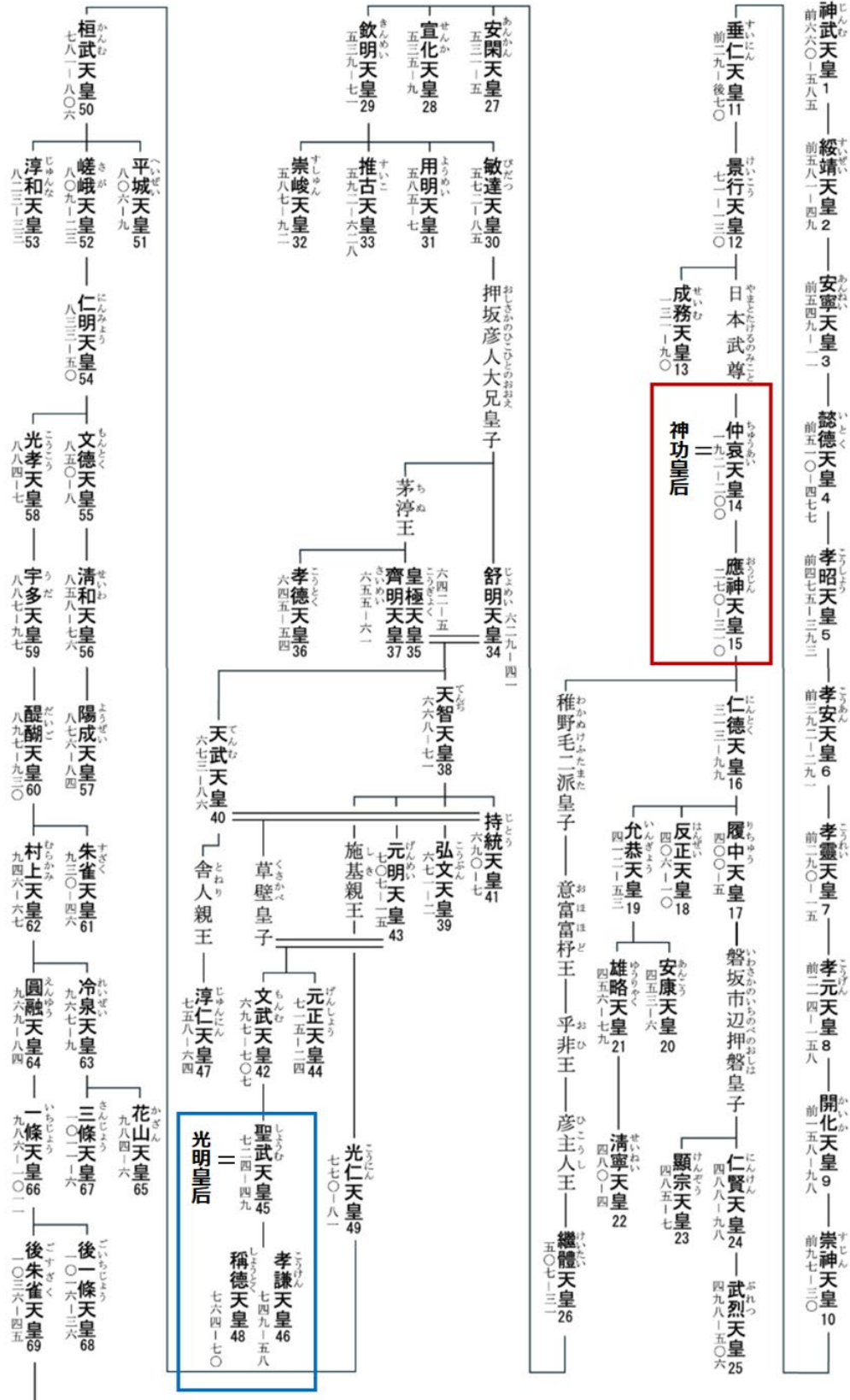
「やまとごころ」のパスワードもたくさん見つかるかも……。乞うご期待！



拙宅から見える足立山



拙宅から見える皿倉山



天皇家の家系図 (出典 宮内庁 HP)

赤枠：神功皇后の時代 青枠：和氣清麻呂の時代



豊の国の物語にまつわる地名

以上

不思議な世界への招待

田中庸彦（S51/1976年卒）

私は音痴である。音が外れていることすら気が付かないから真性であるのは間違いない。ただ正しい音階の溝に偶然はまり込み、そこから外れるすべもわからないので最後まで歌い終わり拍手喝さいを受けることがある。神様のいたずらであろうが、その私が、である。吉村妃鞠（HIMARI）さんのバイオリン演奏を聴いたとき、最初の一音から体が起き上がり頭を揺さぶられ感激の渦の中にいるのです。それ以来、優に三桁に届く回数、この天才少女の演奏を聴いているが最初の感動はいささかも衰えない。

世界最高峰であるカーティス音楽院の彼女の師匠の指導言葉に、最初の一音から物語が語られなければならない、とある。音符をなぞるだけではそれは単なる音楽で、大切なものを語らねばならないと。

数にはプラスの方向だけでなく、マイナスの方向にも終わりがないと理解したとたん、間髪入れず「だから真ん中がないんだよ」とつぶやいた、5歳の幼子がいた。アッケにとられ「君は今何と言った」と声を震わせ私もつぶやいた。前世があって、その誰かが言わせたのだと無理やり思考を停止させていたが、もしかすると無意識が意識の上に乗っかり真実を導き出すことがあるのではないかと思うようになってきた。

50年ほど前、私自身にも不思議なことが起こったことを思い出す。それは卒業論文のプログラムが理論通りの答えを出さないで、プログラムの間違いを見つけ出すために何日も探っていた。そのできごとが起こったのは市電に乗り帰宅途中、八坂神社の前で四条通りに向かうときだった。ポイントが切り替わり電車内のポールに激しく頭を打ち付けた。そのとたん「アッ、あそこが間違いだ」と頭の中にとび出てきた。同種のことが、以前投稿した幾編かの原稿でも起こった。繰り返し推敲し投稿した後、いそいそと車で出かけたときである。アスファルトの凹みにタイヤが落ち頭を激しく揺さぶられ、「アッ」と間違い箇所気づくのです。

NHKのドキュメンタリー番組での、熊野で山伏修行をする人の不思議な話である。懺悔懺悔六根清浄（ザンゲザンゲロツコンショウジョー）と大声で唱えながら山中を歩いていたとき、道に迷い二人そろって同じ場所をグルグル回っていたというのである。まるで異界に飛び込んだようであると述べている。

私にも同じようなことが起こったことがある。通いなれた道を車で走っていたとき見慣れない道を走っているなと思った瞬間、見慣れた道に戻ったことがある。脳細胞が壊れた結果自分がどこにいるかわからなくなったというわけではない。後に何度も確認のために走ったが、どこで道を間違えて走ってしまったのか全く分からない。異界を通り抜けたと形容するのがよいように思える。

チベットに行ってきた。高山病を避けるため、青海省の西寧から青蔵鉄道に乗り一昼夜かけ朝に首都ラサに着いた。ポタラ宮に行きチベット仏教に対するチベット人の信仰の深さに感銘を受け、地元ガイドにその深さはどこから来るのかと尋ねた。お経を含めた仏典がすべてチベット語に訳されているからと答えてくれた。四国を歩いていたとき、各寺で意味も分からず「真言」なるものを唱えていた。この真言の意味は何ですか、とある僧侶に尋ねたことがある。意味が分からないからありがたい真言だと答えられたが、その回答がまったく意味不明である。

同じガイドが、私の祖父はシャーマンで死者の魂を呼び出すことができるというので、日本の東北地方にいるシャーマンに会いに行ったことのある私は、俄然興味津々になってきた。世界中にあるこの種の話はどう考えればよいのか。

京都にいるときは、少なくとも二日に一度は外国人旅行者でござった返す伏見稲荷大社に出かける。JR稲荷駅から稲荷山頂間を往復すると1万歩強になる。頻繁に参詣する理由を尋ねられると、一に信心、二に鍛錬と答え、ひと呼吸をおき三に、あなた方外国人の行動を監視しに来ている、と言い放つことにしている。秘かな目的は、中国語話者を捕まえて放さず中国語の勉強である。中国語を話す日本人は珍しいので、喜んで話し相手になってくれる。議論好きな筆頭はスウェーデン人。なぜ日本は多くの点でこれほど外国と違うのかと問われ、一神でないので価値観が、戦争か平和というような0-1の二値ではなく0.5もある、と答える。サムライ精神が我々の心の中に残っているのですとも。自分の主張しかしない外人には、貴方は勝者の世界史しか知らない、敗者の世界史を知るべきだと言って黙らせる

ことにしている。

これが十年以上続けられるのは、ここでも不思議体験があるからです。

脱線気味になってきたが、

かつて、不思議な世界を研究していた「こころの未来研究センター」という組織が京都大学にあり、何度かセミナーに参加したことがあった。現在は「人と社会の未来研究院」と名称を変え研究を継続している。



2027年度 京機会総会開催のご案内

下記の通り開催いたしますので、ぜひご出席くださいますようお願い申し上げます。

総会および講演会は、オンラインでもご参加いただけます。皆様のご参加をお待ちしております。

I) 日 時: 2026年11月7日(土) 13:45~19:30(終了予定)

II) 会 場(現地):

< 総会・特別講演会 > 京都大学吉田キャンパス物理系校舎 3F 313室

●「総会・特別講演会」は、Zoomを用いたオンライン配信も行います。

< 懇親会 > 史跡旧仮皇居 聖護院 御殿荘 光淳「中御殿」

〒606-8324 京都市左京区聖護院中町15 電話: 075-771-4151

III) 行 事: 13:00~ 受 付

1. 京機会総会 13:45~15:15

1) 開会の辞 2) 会長挨拶 3) 活動報告および議案審議 4) 支部報告
5) 活動優秀賞・会長賞 表彰式 6) 質疑応答 7) 中締め

2. 特別講演会 15:20~16:35

『大学は変われるのか: 国際卓越研究大学とコンプライアンス』

榎木 哲夫 氏 (1981年卒、京都大学 理事・副学長)

このたび京都大学が「国際卓越研究大学」に正式認定されることになりました。この構想に盛り込まれた「伝統の継承」と「研究体制の大規模改革」、そしてこれらを推進する上で表裏一体の不可分な関係となる「リスク防衛」について、過去3年余りにわたる本学のコンプライアンス担当としてのご経験からお話いただきます。



●懇親会は、会場をご移動いただきます<徒歩で15分程度です>

●講演会終了後、懇親会が始まるまでの自由時間は

御殿荘館内で「①ご入浴 ②「一夜造御学問所」見学 ③足湯」もお楽しみいただけます。

(注)①②は、事前申し込みが必要です。

3. 懇親会 17:30~19:25

今回は旬の京懐石に、選りすぐりのお酒もご用意しての懇親会です。

実りの秋、皇室ゆかりの会場で、秋の風情に包まれながら美味しい料理と銘酒にて、懐かしい皆様との「秋の楽しい一夜」をお過ごしください。



4. 記念写真撮影 19:25~19:30

IV) 参加費(懇親会費): 会員 10,000円(~2013年学部卒) / 5,000円(2014年学部卒~)
会員ご家族 7,000円 / ご家族(大学・高校・中学生) 3,000円 / ご家族(小学生) 2,000円
学生 3,000円

●ご着席での宴席となりますため、直前キャンセルの場合、キャンセル料をいただく場合がございます。

●総会・特別講演会(オンライン・現地参加)は無料でご参加いただけます。

V) 懇親会定員: 115名(ご家族含) ●総会・講演会参加には定員はございません。

VI) 参加申込締切: 10月20日(火)

●京機会ホームページ(<https://keikikai.jp/>)からの参加申込をお願いいたします。

●懇親会は定員に達し次第、締切とさせていただきます。お早めにお申し込みください。



●11月7日(土)は、吉田キャンパスで京大ホームカミングデイも開催されています。